

2. 全数把握対象感染症患者報告状況

(1) 全数把握対象感染症の過去5年間の届出状況

	疾患名	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
二類	結核	161	153	149	156	147
三類	細菌性赤痢	1				
	腸管出血性大腸菌感染症	5	11	10	17	13
四類	A型肝炎		2	1	3	
	重症熱性血小板減少症候群	2	7	3	8	4
	チクングニア熱	1				
	つつが虫病	1	1	1	2	2
	デング熱		1		1	
	日本紅斑熱	2	13	6	6	10
	日本脳炎	1				
	野兔病			1		
	ライム病				1	
	類鼻疽	1				
	レジオネラ症	3	1	5	11	15
五類	アメーバ赤痢	4	7	5	4	3
	ウイルス性肝炎(E型、A型を除く)	1	1	1	1	2
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 ¹⁾			4	5	3
	急性脳炎		1	2	3	1
	クリプトスポリジウム症			1		
	クロイツフェルト・ヤコブ病			1		1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1	1	1	
	後天性免疫不全症候群	4	4	8	6	5
	ジアルジア症			1		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		1	1	2	2
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	5	7	4	6
	水痘(入院例) ¹⁾			1		2
	梅毒	2	3	2	11	14
	播種性クリプトコックス症 ¹⁾			1		
	破傷風	4	2		2	3
	風しん	30	2	1		
麻疹			1			

¹⁾ 平成26年9月19日より全数把握対象疾患感染症へ指定された。

(2) 各疾病の届出状況

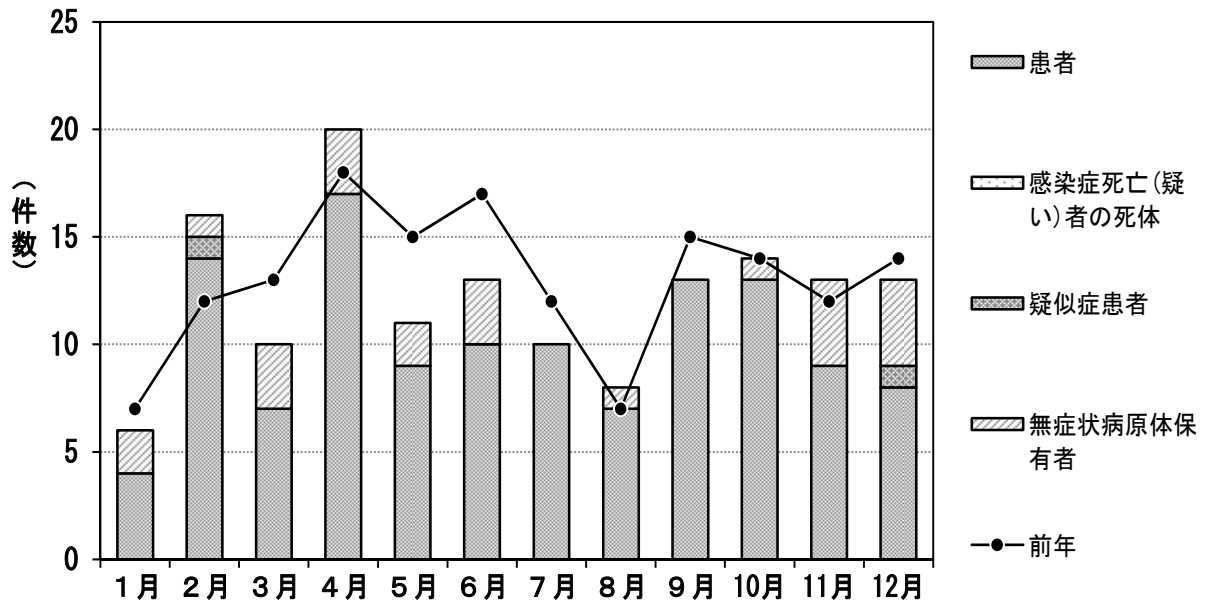
《一類感染症》

一類感染症の届出はなかった。

《二類感染症》

① 結核

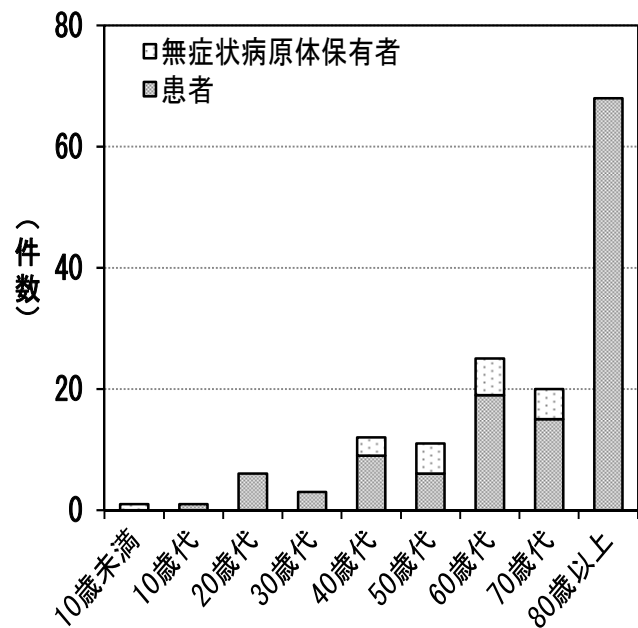
結核の月別届出数



【年齢・性別構成】

	男	女	計
10歳未満	1	0	1
10歳代	0	1	1
20歳代	2	4	6
30歳代	1	2	3
40歳代	5	7	12
50歳代	7	4	11
60歳代	13	12	25
70歳代	14	6	20
80歳以上	24	44	68
計	67	80	147

【年齢・症状別届出数】



年間届出数は147件であった。過去5年間の年間届出数は、毎年約150件前後と、ほぼ横ばいで推移している。

月別の届出数では、1月（6件）と8月（8件）がやや少なく、4月（20件）が最も多かったものの、その他の月は10～16件で推移し、季節的な特徴は見られなかった。

症状別では、「患者」が121件（内訳：肺結核82件、その他の結核30件、肺結核及びその他の結核9件）と最も多く、「疑似症患者」は2件、「無症状病原体保有者」は24件であった。

届出者を年齢別にみると、60歳未満（34件）では各年齢層ともほぼ10件以下の届出数であったが、60歳を越え年齢が高くなるにつれ大きく増加し、60歳以上が113件と全体の約77%を占めた。

性別では、男性67件、女性80件とやや女性が多かった。

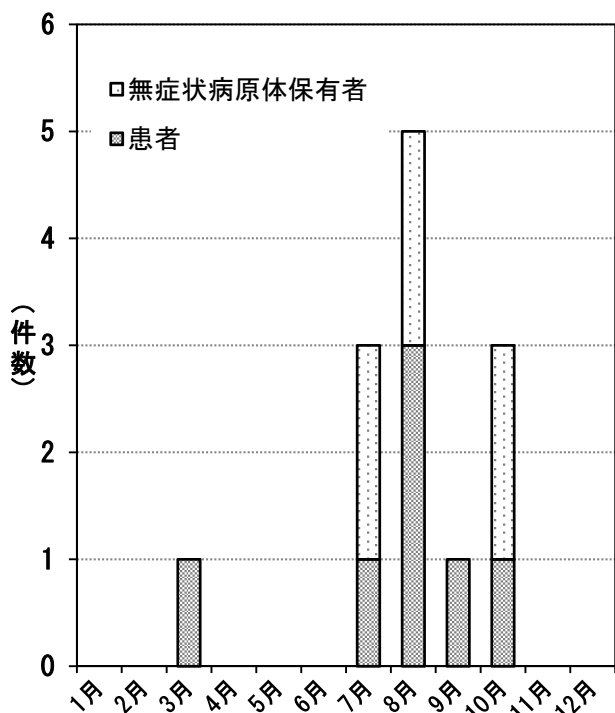
年齢別に症状を比較した場合、60歳を境として異なった。すなわち60歳以上では「患者」及び「疑似症患者」が102件（90.3%）と大部分を占めたのに対し、60歳未満では「無症状病原体保有者」が9件（26.5%）、「患者」は25件（73.5%）と若年層ほど「無症状病原体保有者」の割合が高かった。

また職業別では、医療・介護などの施設関係者や学生、教職員等、人と接する機会が多く集団感染に繋がる環境にある者も見られたことより、感染拡大防止のため施設関係者等に対し感染予防啓発、施設内感染対策の徹底が不可欠と考えられた。

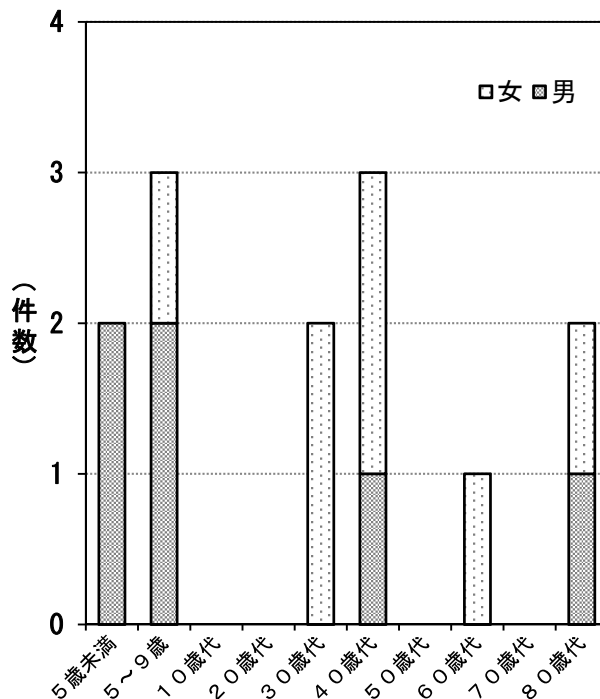
《三類感染症》

② 腸管出血性大腸菌感染症

【 月別・症状別届出数 】



【 年齢・性別届出数 】



診断月	性別	年齢	症状	型別	推定感染地域
3月	女	30歳代	腹痛、血便、嘔吐	0157 (VT1、VT2)	国内
7月	男	5歳未満	下痢	026 (VT1)	国内
7月	男	5歳未満	無症状病原体保有者	026 (VT1)	国内
7月	女	5～9歳	無症状病原体保有者	026 (VT1)	国内
8月	女	80歳代	腹痛、下痢	0111 (VT1、VT2)	国内
8月	男	80歳代	無症状病原体保有者	0111 (VT1)	国内
8月	男	40歳代	腹痛、水様性下痢	0111 (VT1)	国内
8月	男	5～9歳	腹痛、水溶性下痢	0103 (VT1)	国内
8月	女	60歳代	無症状病原体保有者	0103 (VT1)	国内
9月	女	40歳代	腹痛、水様性下痢	0157 (VT1、VT2)	国内
10月	男	5～9歳	水様性下痢、血便	026 (VT2)	国内
10月	女	30歳代	無症状病原体保有者	026 (VT2)	国内
10月	女	40歳代	無症状病原体保有者	0146 (VT2)	国内

年間届出数は13件であった。県内保育所にて発生した集団感染事例等により過去5年間で最も届出数の多かった前年(17件)からやや減少した。過去の年間届出数推移をみると、平成23年以前では毎年13～27件届出られていたが、厚生労働省による生食用食肉の規格基準改正(平成23年10月より)と生食用牛生レバーの提供が禁止(平成24年7月より)されて以降減少し、毎年10件前後で推移している。

一般に本疾患は夏から秋に多いとされる。月別の届出数推移でも、3月に届出られた1件を除き大半が7～10月に届出られ、患者発生は夏から秋に集中した。

年齢別では、10歳未満から80歳代まで幅広い年齢層から報告され、性別では、男性6件、女性7件とほぼ同数であった。

診断の類型では「患者」が7件、「無症状病原体保有者」6件とほぼ同数報告され、「患者」は腹痛、水溶性下痢、血便、嘔吐など複数の症状を訴えていた。血清型別では、本疾患の多くを占める0157や026、0111の他に0103、0146などの血清型も報告された。

「患者」報告例の感染経路や感染源は、潜伏期間が2～14日と比較的長いこともあり原因の特定には至らなかったが、全て国内にて感染したと推定された。また、「無症状病原体保有者」の多くは「患者」との接触者検診から報告され、家族内感染と推定された。

《四類感染症》

③ 重症熱性血小板減少症候群

年間届出数は4件で、平成25年3月4日より四類全数把握対象感染症に指定されて以降、平成25年(2件)、平成26年(7件)、平成27年(3件)、平成28年(8件)と毎年届出られている。

届出月は6～10月と、マダニの活動時期と一致する春から秋に集中し、年齢及び性別は40～80歳代の男性3件、女性1件であった。

感染経路は、多くが県内にて農作業などの野外活動時にマダニ等に刺咬され感染したと推定されたが、ウイルスに感染した飼育動物からの感染が推定された例もみられた。

徳島県では本疾患をはじめ、つつが虫病、日本紅斑熱など、原因微生物を保有するマダニ等の刺咬に

よる感染症が毎年のように報告されている。重症化例も見られることより、登山、森林作業、農作業など野外作業機会の多い中高年者を中心に、ダニ・昆虫媒介性疾患に対する予防対策の啓発が重要と考えられた。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6月	男	70歳代	発熱、筋肉痛、神経症状、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少	マダニ等からの感染	国内
7月	女	80歳代	発熱、神経症状、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、紫斑	マダニ等からの感染	国内
9月	男	40歳代	発熱、腹痛、下痢、嘔吐、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少	感染動物等からの感染	国内
10月	男	70歳代	下痢、食欲不振、血小板減少、白血球減少	マダニ等からの感染	国内

④ つつが虫病

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	男	60歳代	頭痛、発熱、刺し口、発疹	ツツガムシ等からの感染	国内
4月	女	50歳代	刺し口	ツツガムシ等からの感染	国内

年間届出数は2件で、過去5年間では毎年1~2件が届出られている。

届出月は患者発生報告が多いとされる冬から春先にあたる1月と4月、年齢及び性別は60歳代の男性と50歳代の女性で、いずれも県内にて感染したと推定された。

⑤ 日本紅斑熱

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
4月	男	70歳代	発熱、刺し口、発疹、リンパ節腫脹	マダニ等からの感染	国内
4月	男	40歳代	発熱、頭痛、発疹、肝機能異常、リンパ節腫脹、関節痛	マダニ等からの感染	国内
7月	女	70歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
9月	男	60歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹、肝機能異常、関節痛	マダニ等からの感染	国内
9月	男	50歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
9月	男	80歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
10月	女	80歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内

10月	男	30歳代	発熱、刺し口、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
10月	女	50歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常、 関節痛	マダニ等からの感染	国内
11月	男	50歳代	発熱、発疹、DIC、肝機能異常、 血球貪食症候群	不明	国内

年間届出数は10件であった。過去5年間における年間届出数推移は2～13件と、年毎による差が大きい。

届出月は4～11月と、マダニの活動時期と一致する春から秋に集中した。年齢は30～80歳代まで幅広い年齢層から報告され、性別は男性7件、女性3件であった。

本疾患は重症熱性血小板減少症候群と同様に、畑や森林における野外作業中での感染が数多く報告されているが、本年届出られた大半の例もレジャーや農作業等の野外作業においてマダニに刺咬されたと推定されている。

⑥ レジオネラ症

診断月	性別	年齢	症状	推定感染経路	推定感染地域
1月	男	60歳代	発熱、咳嗽、肺炎、多臓器不全	水系感染	国内
2月	男	70歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎、多臓器不全	水系感染	国内
4月	男	70歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎	不明	国内
4月	男	70歳代	発熱、呼吸困難	不明	国内
5月	男	70歳代	発熱、肺炎、嘔吐	水系感染	国内
5月	男	80歳代	発熱、呼吸困難、腹痛、意識障害、肺炎、多臓器不全	不明	国内
5月	男	80歳代	発熱、意識障害、肺炎	不明	国内
6月	男	50歳代	発熱	不明	国内
7月	男	40歳代	発熱	不明	国内
7月	男	60歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、意識障害、肺炎、多臓器不全	水系感染	国内
8月	男	60歳代	発熱、咳嗽、肺炎	不明	国内
9月	男	60歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎	不明	国内
9月	男	40歳代	発熱、下痢、肺炎	不明	国内
9月	男	70歳代	発熱、肺炎、頭痛	不明	国内
11月	男	60歳代	下痢、肺炎	水系感染	国内

年間届出数は15件であった。年間届出数の推移をみると、平成26年以前は毎年1～3件の報告数で推移していたが、平成27年（5件）、平成28年（11件）、本年（15件）と3年続けて増加した。

届出月では年間を通して発生し、季節的な特徴は見られなかった。年齢は40～80歳代まで幅広く、性別は全員男性であった。

病型は全例「肺炎型」で、推定感染経路は水系感染が5件、不明10件、いずれも国内にて感染したと推定された。

《五類感染症》

⑦ アメーバ赤痢

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
2月	男	30歳代	粘血便	不明	国内
6月	男	40歳代	粘血便、腹痛、大腸粘膜異常所見	不明	国内
8月	男	40歳代	下痢、腹痛、発熱	性的接触	国内

年間届出数は3件で、過去5年間では毎年4～7件届出られている。

年齢は30～40歳代、性別は全員男性であった。

推定感染経路は性的接触が1件、不明2件、いずれも国内にて感染したと推定されている。

⑧ ウイルス性肝炎（E型、A型を除く）

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5月	女	10歳代	全身倦怠感、肝機能異常、黄疸	異性間性的接触	国外
5月	女	40歳代	全身倦怠感、嘔吐、肝機能異常、黄疸	不明	国内

年間届出数は2件で、過去5年間では毎年1件ずつ届出られている。

届出月は2件とも5月に届出られ、年齢及び性別は、10歳代と40歳代の女性であった。

病型は「B型肝炎」と「サイトメガロウイルス」、1件は国内、1件は海外に渡航中感染したと推定された。

⑨ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染原因・経路	推定感染地域
3月	男	90歳代	尿路感染症、敗血症	以前からの保菌	国内
9月	男	30歳代	術後感染(皮下膿瘍)	手術部位感染	国内
12月	女	80歳代	尿路感染症、菌血症	医療器具関連感染	国内

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は、平成26年9月19日より五類全数把握対象感染症に指定され、本年は3件届出られた。過去4年間では平成27年に4件、平成28年には5件届出られている。

年齢は30～90歳代と幅広く、性別は男性2件、女性1件であった。

感染経路は手術部位や医療器具を介しての感染が2件、以前からの保菌が1件であり、全例国内にて感染したと推定された。

⑩ 急性脳炎

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
12月	男	60歳代	発熱、頭痛、意識障害	飛沫・飛沫核感染	国内

年間届出数は1件で、平成26年より毎年1～3件が届け出られている。

60歳代の男性、国内にて感染したと推定され、病原体は「インフルエンザウイルスA型」が検出されている。

⑪ クロイツフェルト・ヤコブ病

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
7月	女	60歳代	進行性認知症、ミオクローヌス、錐体外路症状、視覚異常、記憶障害、精神・知能障害、筋強剛	不明	不明

年間届出数は1件で、過去5年間では平成27年に1件届出られている。

60歳代の女性で、病型は「孤発性プリオン病」、感染経路・地域は不明であった。

⑫ 後天性免疫不全症候群

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
2月	男	40歳代	視力障害、振戦、進行性多巣性白質脳症、エイズ脳症	同性間性的接触	国内
3月	男	40歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	不明
3月	男	80歳代	無症状病原体保有者	輸血	国外
5月	男	50歳代	発熱、ニューモシスティス肺炎、汎血球減少	不明	国内
7月	男	40歳代	ニューモシスティス肺炎、サイトメガロウイルス腸炎	異性間性的接触	国内

年間届出数は5件であった。過去5年間では毎年4～8件が届出られている。

年齢は40～80歳代、性別は全員男性、類型は「患者」3件、「無症状病原体保有者」2件であった。

推定感染経路・地域は、同性または異性間での性的接触が3件、不明1件については国内で感染したと推定され、残り1件は国外での輸血により感染したと推定された。

現在、保健所等を中心に利用者の利便性に配慮した無料検査・相談体制が実施されている。本年、報告された5件のうち、1件は県内保健所で実施された無料検査にて診断、報告された。今後もハイリスク層や発生報告の多い20～50歳代を中心とした幅広い年齢層に対し、より積極的な普及啓発を推進し、HIV感染の早期発見による早期治療と、感染拡大の抑制に努めることが重要と考えられた。

⑬ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6月	女	80歳代	発熱、肺炎	不明	国内
11月	男	70歳代	肺炎、菌血症	不明	国内

年間届出数は2件で、平成26年より毎年1～2件ずつ届出られている。

年齢及び性別は、70歳代の男性と80歳代女性で、いずれも国内にて感染したと推定された。

⑭ 侵襲性肺炎球菌感染症

年間届出数は6件であった。過去5年間では、毎年4～7件が届出られている。

年齢は5歳未満の1件以外は60～80歳代と高齢者に多く、性別は全員男性、いずれも国内にて感染したと推定された。

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1 月	男	80 歳代	発熱、咳	飛沫・飛沫核感染	国内
2 月	男	60 歳代	頭痛、髄膜炎、菌血症	不明	国内
5 月	男	80 歳代	発熱、全身倦怠感、意識障害、肺炎、菌血症	飛沫・飛沫核感染	国内
8 月	男	60 歳代	頭痛、発熱、嘔吐、意識障害、項部硬直、髄膜炎、中耳炎、菌血症	飛沫・飛沫核感染	国内
10 月	男	5 歳未満	発熱、菌血症	不明	国内
12 月	男	60 歳代	頭痛、発熱、意識障害、項部硬直、髄膜炎	不明	国内

⑮ 水痘（入院例）

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
4 月	男	20 歳代	発熱、発疹	飛沫・飛沫核感染 家族内感染	国内
10 月	男	50 歳代	発熱、発疹	带状疱疹からの播種	国内

水痘（入院例）は、平成 26 年 9 月 19 日より五類全数把握対象感染症に指定され、本年は 2 件届出られた。過去 4 年間では平成 27 年に 1 件届出られている。

年齢及び性別は、20 歳代と 50 歳代の男性で、いずれも国内にて感染したと推定された。

⑯ 梅毒

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3 月	男	30 歳代	鼠径部リンパ節腫脹、陰茎部硬性下疳	異性間性的接触	国内
3 月	女	20 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
5 月	男	60 歳代	神経症状、眼症状	性的接触	国内
6 月	女	30 歳代	びまん性脱毛、関節痛	異性間性的接触	国内
7 月	男	40 歳代	丘疹性梅毒疹	性的接触	国内
7 月	男	20 歳代	丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
7 月	女	80 歳代	無症状病原体保有者	不明	国内
8 月	男	30 歳代	初期硬結	性的接触	国内
8 月	女	20 歳代	丘疹性梅毒疹	性的接触	国内
9 月	男	50 歳代	ゴム腫	不明	国内
9 月	男	30 歳代	硬性下疳	性的接触	国内
9 月	男	20 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
11 月	女	20 歳代	初期硬結、硬性下疳	性的接触	国内
12 月	男	10 歳代	鼠径部リンパ節腫脹	異性間性的接触	国内

年間届出数は14件であった。過去の年間届出数推移では、平成27年以前は毎年2～3件の届出数で推移していたが、前年（11件）に続き2年連続で増加した。

年齢別では、60歳以上の高齢者が2件見られたものの、10～40歳代が11件と若年層に多く、性別では男性9件、女性5件と男性がやや多かった。

感染地域は、全例国内で感染したと推定されている。

現在、我が国では若年層を中心に梅毒患者の増加が大きな問題となっている。後天性免疫不全症候群と同様に、発生報告の多い10～40歳代を中心とした幅広い年齢層に対し、感染者及びパートナーと共に積極的な感染予防啓発の推進が重要と考えられた。

⑰ 破傷風

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5月	男	20歳代	筋肉のこわばり	創傷感染	国内
8月	男	70歳代	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害、易興奮性、反弓緊張	創傷感染	国内
9月	男	70歳代	開口障害	創傷感染	国内

年間届出数は3件で、過去5年間では報告のなかった平成27年を除き、毎年2～4件が届出られている。

年齢及び性別は20～70歳代の男性、感染経路は創傷感染、国内にて感染したと推定されている。